

【言葉のない世界】

八木 忠栄

金子兜太と田村隆一の対談を、古い雑誌「俳句」75・6月号）からの再録で最近読んだ。きわめて中身のある対談で、期待以上に読みごたえがあった。田村隆一には「言葉のない世界」という代表的な詩がある。

言葉のない世界を発見するのだ 言葉をつかつて

真昼の球体を 正午の詩を

おれは垂直的人間

おれは水平的人間にとどまるわけにはいかない

二人は、一茶・自由詩・衆・即興・月並句などについて熱っぽく対話している。最後に田村さんは「一番理想的な世界というのは、言葉のない世界です。言葉のない世界というのは、言葉を蔑視したり、言葉を度外視したりするんじゃないかって、比喻がつけ込むすきのない世界を現出できたらすごいと思う」と言い、金子兜太は「そういえば、あなたの詩集の題は『言葉のない世界』だった」と対談をしめくくっている。

四十余年前に田村隆一が語った右の言葉は、現代詩人にも俳人にも、今日なお重要な問題提起をしているように思われる。詩人と俳人はもつと対論すべきだろう。